

2021 年度春季大会 一般公開プログラム開催報告

根を深くはり、梢を見あげる 日本語教育の樹よ育て

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

日時：2021 年 5 月 22 日（土）10:00-12:00

場所：オンライン開催（ZOOM）

参加者：856 人

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会ですが、調査研究推進委員会では、かねてよりその活動範囲を大きな樹にたとえて描く[樹形図](#)を提案し、幾度もの[ワールドカフェ開催時アクティビティ](#)を通して、その樹形図を発展させてきました。その樹のあちらこちらで、今日も言語教育研究者・実践者たちは、頭を悩ませ、実践やデータに向き合い、悩み、明日の社会を夢見ています。2019 年には、日本語教育推進法が成立し、日本語教育の発展に弾みがつくことが期待されましたが、その後現在まで Covid-19 のパンデミックにより世界的な人の移動が制限されていることなどを原因として、日本語教育関係機関においても、大変動そして苦難の時期が続いていることは周知の通りです。

しかし、だからこそ、日本語教育学の樹は、より深く広く根をはり、より高く梢を伸ばしていかなければなりません。そして、この先に苦しいことばかりでなく、希望と夢を見ることが、「人をつなぎ、社会をつくる」ことへと繋がっていくのだと私たち調査研究推進委員会は考えています。

そこで、今回のプログラムでは、学会の活動範囲を象徴的に描く樹形図を示したあとで、樹形図の 6 本の太い枝それぞれで活躍する登壇者 6 名（登壇順に、藤森弘子氏、土井佳彦氏、金孝卿氏、嶋田和子氏、神吉宇一氏、砂川裕一氏）に、それぞれの研究・実践の夢を語っていただきました。オンライン開催であった今回のプログラムには、一時的には 856 件もの接続がありました。これは一般公開プログラム参加人数としては過去最多となります。講演後の質疑応答でも多くの質問が寄せられました。

開催後のアンケート（回答数 221）では、内容について「満足、少し満足、どちらでもない、少し不満、不満」の 5 段階評価のうち、62.4%の回答者が「満足」を、22.6%が「少し満足」を選択し、合計で 90%近い肯定的な評価が得られました。自由記述部分でも、多くの肯定的な感想、意見が集まりました。一部に見受けられた不満や改善点の指摘の主たるものは、国外での日本語教育への目配りの薄さです（同様の指摘は、質疑応答時にもありました）。講演者の所属も講演内容も、日本国内での日本語教育に偏っているのではないか、という趣旨の指摘でした。

これは、当初、一般公開プログラムが対面開催を予定していて、登壇者も一般参加者も国内からの参加が大多数であると想定していたことが主な原因ですが、オンラインだったからこそ数多く参加接続してくださった、国外からの参加者には申し訳ない結果となりました。なお、今回のオンラインによる運営については、95%近くの回答者が肯定的な評価をしています。コロナ禍で私たちの多くがオンラインイベント参加に慣れてきました。今後、コロナ禍収束が遅れ一般公開プログラムのオンライン開催が続いた場合には、国外からの講演者招致や一般参加がより実現しやすくなることを念頭に置いたプログラム運営が期待される、ということ念頭に置いておきたいと思えます。